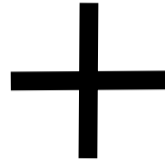


# 褒め言葉一覧 (A+Bで文をつくる)

A

- <行動や姿(～姿を見ると)>
- ・～して頑張っている姿、
  - ・テストを受けている姿、
  - ・部活動で～している姿、
  - (例：声を出している姿、アタックしている姿など)
  - ・夢に向かってる姿、
  - ・汗を流している姿、
  - ・勉強している姿、
  - ・勇気をもって～している姿
  - ・～を続けてる姿、
  - ・～を買っている姿、
  - ・見えない所で手を抜かない姿、
  - ・一生懸命～している姿、

- <状態>
- ・そのままの〇〇さん、
  - ・失敗している〇〇さん、
  - ・迷っている〇〇さん、
  - ・〇〇さんの瞳(姿勢)、
  - ・〇〇さんの笑顔、
  - ・(解答用紙を見て)
  - ・(その生徒の特技を見て)
  - ・(朝読書の様子を見て)
  - ・(質問された時に)
  - ・(手伝ってくれている姿を見て)
  - ・(その他、行動している姿を見て)



B

- ・幸せになれる
- ・ぐっとくる
- ・ワクワクする
- ・嬉しい
- ・胸が高まる
- ・涙がでるほどうれしい
- ・感謝の思いで胸がいっぱい
- ・胸にジーンとくる
- ・言葉にならない(できない)
- ・エネルギーをもらえる
- ・自分にはできない
- ・うらやましい
- ・流石
- ・恩人
- ・〇〇さんの影響
- ・〇さんが力を発揮できた
- ・〇〇さんのおかげ
- ・晴れ中学生
- ・(生徒の持ち物に対して)  
その△△、私も～。
- ・〇年後がとても楽しみ
- ・みんなが〇〇さんに釘づけ
- ・頼りになる
- ・ドキドキする
- ・見ていて安心
- ・ありがとう
- ・感動
- ・家族にしたい。

- ・かっこいい
- ・よく考えている
- ・輝いている
- ・素敵
- ・まっすぐ
- ・親孝行
- ・いい
- ・性格がいい
- ・活躍できる
- ・絶妙
- ・さりげない
- ・威張ってない
- ・優しい
- ・積極的
- ・力強い
- ・努力している
- ・頑張っている
- ・才能がある
- ・意思が強い
- ・明るい
- ・成長した
- ・集中力がある
- ・鋭い
- ・一流
- ・みんなのことを考えている
- ・ナイスアイデア
- ・似合っている
- ・大人
- ・大きく羽ばたく
- ・光っている
- ・将来大きなことをやり遂げる
- ・神
- ・センターを取れる

- ・100年かかっても追いつかない。
- ・〇〇さんに今度、△△の授業してほしいな。
- ・△△、写真撮らせてもらっていい?
- ・僕のこの手帳にちょっと△△してもらっていい?
- ・〇〇さんが△△しているところ、家に飾っておきたい。
- ・有名になった時、〇〇さんサインを一番にもらうから。
- ・この△△、ガチでうらやましい。
- ・〇〇100段?
- ・〇〇中学校で一番が〇〇うまい
- ・〇〇の達人
- ・△△のプロ
- ・ノーベル賞級
- ・△△100年くらい習っているみたい
- ・〇〇中学校のお手本
- ・習字の本に載ってた字よりもきれい
- ・〇〇さんの△△、めっちゃくちゃ品がある
- ・〇〇さんの△△、すごい見ていて飽きない
- ・単に△△がうまいだけではない。〇〇さんらしさがある
- ・〇〇さんの△△、繊細なのに迫力がある
- ・超一流
- ・オーラ
- ・センスのかたまりですね
- ・ブライスレス
- ・この△△の部分、極めている
- ・将来大物になる

## 褒め言葉をさらに増やすための視点

- 未来のことを褒める。
- 頑張りや努力を褒める。
- 褒めてほしいことを見つけてほめる。
- 外見や(こだわって)もっているものを褒める。
- 初めて～できたことを褒める。
- 継続していることを褒める。
- 「努力、過程」を褒める。
- 「細部」を褒める。
- 「ありのまま」を視点を変えて褒める。
- 「BESTであること」を褒める。
- 「ONLYYであること」を褒める。
- 工夫していることを褒める。
- 当たり前のことを褒める。
- 生徒への光の当てる方向を変える。
- 生徒が自分だけの力では気づかない部分に

## 褒め言葉をより効果的にするためのヒント

- 間を開けずに褒める。
- 本気の顔で(怖い顔ではない)褒める。
- 体全体で褒める(身振り、手振り、顔の表情)。
- 褒め顔を友人先生などに見てもらい、鏡で練習するのがよい。
- 褒めたい生徒と良い関係でなければ、無理はしない。
- 本気でそう思っていることしか伝わらない。
- 評価ではない。上から目線はアウト。
- 生徒の名前を入れる(名前を言う時は、特に大事に心を込めて丁寧に言う。)
- 握手しながら言う(同性の生徒に対して)。
- 関係がよい生徒へは、大袈裟に褒める
- 関係がよくない生徒へは、関係の良い先生に伝えてもらう
- 「誰でも気づいていること」を褒めるなら、「どのように褒めるか(言葉を選ぶ)」に重点をおく。
- 誰も気づいていないことを褒めるなら、「相手の何を褒めるか(視点を選ぶ)」かに重点をおく。
- 生徒、状況により、言い方を変える。
- 例：丁寧語(～です、ます)、断定(～だ)、単語だけを言う、砕けた言い方(～的な)
- 褒めるには感性が必要である。感性を磨くことも忘れない。
- 「生徒を心から褒めたい」という気持ちがあることが大原則。常に意識していると、「褒めのアンテナ」が高くなる。

## その他の褒め言葉

- <枕詞をつける>
- ・〇〇さんは、まだ分かっていないかもしれないけれど、
  - ・〇〇さんは、気づいていないかもしれないけれど、
  - ・自分自身ではそうは思わないかもしれないけれど、
- <程度を表す言葉を付ける>
- ・いつも
  - ・本当に
  - ・すごく
  - ・ガチ
  - ・めっちゃ
  - ・相当(相当頑張った、相当練習したなど)
- <褒める時に困った時「嬉しい」>
- ・嬉しい、嬉しい、本当に私は嬉しい
  - ・～してくれて嬉しい
  - ・～だから嬉しい
  - ・～でも嬉しい